

# ミステリ読書案内

2019.12.18 発行元

第18号 伊藤 剛

## ディクソン・カーベスト表

「密室」「不可能犯罪」で最も有名なジョン・ディクソン・カー。1930年代の本格ミステリの黄金時代をEQとともに支えた重要人物。日本人好みの作風で、日本ミステリの多くの作品の着想の土台になっている。

### 《ディクソン・カーのベスト表》

1. 火刑法廷
2. ユダの窓
3. 三つの棺
4. 赤後家の殺人
5. アラビアンナイトの殺人
6. 曲った蝶番
7. カー短編集 2 (創元推理文庫版)
8. 黒死荘殺人事件
9. カー短編集 3 (創元推理文庫版)
10. 連続殺人事件
11. 白僧院の殺人
12. カー短編集 1 (創元推理文庫版)
13. 緑のカプセルの謎
14. 読者よ欺かるるなかれ
15. 夜歩く
16. 貴婦人として死す
17. 絞首台の謎
18. 皇帝のかぎ煙草入れ
19. カー短編集 4 幽霊射手
20. 爬虫類館の殺人
21. 弓弦城殺人事件
22. 九つの答
23. 魔女の隠れ家
24. 死時計
25. カー短編集 5 黒い塔の恐怖
26. 帽子収集狂事件
27. テニスコートでの死
28. 猫と鼠の殺人
29. 孔雀の羽根
30. 死者はよみがえる
31. 四つの凶器
32. 仮面荘の怪事件
33. 火よ燃えろ
34. ビロードの悪魔
35. 囁く影
36. 疑惑の影
37. 喉切り隊長
38. 青銅ランプの呪い
39. バトラー弁護に立つ
40. ニューゲイドの花嫁

私が読んでいるのは、カーの作品の約3分の2だろうと思う。現在、全作品が日本語訳になっているそうだが、手に入らない本、国書刊行会版のように高価なもの……とあって、未読がまだまだある。その中で上位に来るもの……？

### カー作品のベストは何か？

少し前に二階堂黎人の『亡霊館の殺人』を読んでいたら、後半にカーの『パンチとジュディ』の解説文が引用されていた。その中に、カー作品のランク付けがあった。Aランク、Bランク、Cランクと分けられていた。その作品の並びを見て、概ね私の思いと同じだなあと感じた。

右に私なりの『ベスト表』を載せた。上位の1位～3位と言うか、1位～6位というか、この辺の評価は、誰に聞いても間違いないところだと思う。名前そのもので言えば『ユダの窓』が一番知られているのだろうか。3位に挙げた『三つの棺』の中に出てくる『密室講義』は特に有名。そこに書かれている密室の分類はいろんな作品に引用されている。

### フェル博士とH・M卿の活躍

カーの作品にはカー名義のものとカーター・ディクソン名義のものがある。カー名義作品の探偵役がフェル博士で、ディクソン名義の探偵役がヘンリー・メルヴェール卿である。名前が違うだけで、ほとんど同じ人物である。

私が学生の時は、創元推理文庫のカー作品はたちまちに読了して、それからハヤカワ・ポケット・ミステリで探し始めた。ポケミスは、当時でも思うようには手に入らず、苦労

した。駄目もとで書店に注文を出したなら、古い『わらう後家』が見つかったこともあった。

カー作品を特徴付けているのは「不可能犯罪」だけではない。怪奇趣味(オカルティズム)やドタバタ・笑劇(ファース)など、独特のものがある。全ての要素でピタリうまく嵌ったものが『火刑法廷』であり、逆に「なんだこれは……」と読了後にガクッと来る凡作もあつたりする。それがまた、いかにもカーらしく、楽しいところである。

### 歴史活劇ものも面白い

カーの作品では、短編にも見所がたくさんある。体系的にまとめられているのが創元推理文庫版の全5冊。その中の『短編集2』に収められている『妖魔の森の家』がカー短編の代表作である。

カーのミステリは「中毒」になりやすい。密室・不可能犯罪の謎の魅力は、すごい吸引力だ。一冊読み終わるとすぐ、また次が読みたくなってしまう。不思議な感覚。

カー作品には歴史ミステリもいくつもある。右表で言うと『火よ燃えろ』『ビロードの悪魔』『喉切り隊長』『ニューゲイドの花嫁』などがそれである。活劇場面も多く、ハラハラドキドキ、楽しんで読める。ミステリ古典として今後も生き続けてほしい。

カーと日本人作家…冒頭に挙げた二階堂黎人だけでなく、折原一や有栖川有栖や綾辻行人やはやみねかおるなど、カーの思いを引き継いでいる日本人作家は多い。折原一の『五つの棺』(後で、短編が付け足され『七つの棺』に改題された…創元推理文庫)などは、その代表である。そういえば、二階堂作品に『増加博士と目減卿』というパロディがあつたなあ。